

アンワール元副首相を逮捕 (2008.7.16)

逮捕前夜

辻修次

(マラヤ大学)

90 年代末の政変の背景に、アジア経済危機という経済的なリスクの高まりがあるように、08 年のバリサンナショナル敗北とアンワール逮捕も、国際的な原油価格の急騰と米国でのレバレッジ金融の混乱による経済的なリスクの高まりが背景にある。では、今回の政治劇に国際的な経済環境がどう影を落としたのか。アンワール逮捕に先だつ状況を概観する。

1. インフレ圧力

3 月の総選挙時に、各地の演説会場などで主な争点とされていたのはガソリンと食料品の価格高騰だった。つまり、インフレへの懸念が選挙民、ことに低所得層にとって、もっとも身近で重要な関心だった。そして、今日までこの懸念は悪化傾向にある。原油の国際価格は、3 月の時点ですでに数ヶ月上昇を続けていたが、まだ1バレル 100 ドル前後だった。その後、4 ヶ月のスパンで原油の国際価格は1バレル 148ドルまで約 1.5 倍に上昇した。さらに、先物市場では食料価格の高騰も続いた。つまり、インフレ圧力はこの期間、緩和されなかったといえる。特にマレーシア国内のエネルギー分野では、補助金見直しによるガソリン価格の4割値上げや、電力供給会社への課税強化など、与党の対応が政治的な争点であり続けた。国際的な商品相場が高騰する状況で、人々が、課税や補助金の削減など、その状況下で行われた政治選択に問題を帰属し、否定的な論調を強める構図は日本の揮発税問題と共通している。

2. 諸刃の刃

他方でマレーシアは、商品相場の価格が急落した場合も痛手を負う。現在の国際的な一次産品高は原油、天然ガス、ヤシ油の輸出価格を大きく引き上げ、マレーシア経済を支えてきた。トレンガヌやサラワクなど、いくつかの特定の州では、この資源高が特にプラスに働いてきた。今後引き続き欧米の景気が下ぶれしたとしても、資源高が続き、原油・天然ガス・ヤシ油が高

値で取引されれば、電機電子製品や観光の需要減少の影響の一部が緩和される。このように、産油国マレーシアでは、商品相場高は諸刃の刃である。もとより不確実性の高い商品市場の値動きが政争につながることに、非常に敏感にならざるを得ない状況が続いていた。

3. 途上国プレミア

さらに、資本市場においては、新興国・途上国の債権に対するリスクプレミアムは上昇が続いている。これは、米国でのレバレッジ金融の混乱による大きなリスクが解消されず、世界的に資本市場の先行きが不透明な中で生じている一般的な現象だが、マレーシアの経済メディアにおいては、政変のリスクがプレミアムを不当に引き上げているという見解が流布していた。フアンイーメイとフレッドディーのアメリカ連邦保障債権の問題の浮上以後、政治リスクに対する嫌悪感はさらに強まっていた。■